

国立公園とは、日本を代表する自然の風景地を環境大臣が指定し、自然の保護や利用を図る地域のこと。日本には現在31の国立公園があり、裏磐梯は磐梯朝日国立公園に指定されています。

「霧島錦江湾国立公園」

昭和29年3月16日指定/面積74,441ha/宮崎県 鹿児島県
 高千穂河原ビジターセンター(自然公園財団 高千穂河原支部)
 主任 中之蘭勝信さんよりご紹介いただきます



昭和9年、日本で最初に霧島地域が指定、その後、霧島屋久国立公園で親しまれてきましたが、桜島など生きた火山の魅力や火山活動により形成された風景や生態系が特徴の霧島錦江湾地域が霧島錦江湾国立公園として指定されました。



霧島山(手前から中岳 新燃岳 獅子戸岳 韓国岳)

多くの火山が密集した霧島地域の山々は、登山する魅力とミヤマキリシマやノカイドウなどの珍しい植物を見ることができます。

また高千穂峰は、天孫降臨伝説があり、古くから信仰の対象として、地域から親しまれています。錦江湾地域には、今も活発な火山活動を続ける桜島や美しい円錐型の開聞岳などがあり、佐多岬は、アコウ、ソテツなど亜熱帯植物に覆われ南国ムードが漂っている。



高千穂河原から御鉢 高千穂

《高千穂河原ビジターセンター》

高千穂峰などの登山基地として、また、霧島の自然の展示物や高千穂峰の頂上にある「天の逆鉾」のレプリカと壁一面の写真に囲まれたコーナーがあります。まるで頂上にいるような気分になります。シアターコーナーでは、約15分程度の霧島の歴史がわかる映像も観ることが出来ます。



高千穂河原ビジターセンター

ようこそ！ビジターセンターへ

裏磐梯ビジターセンターの活動を紹介します

講演会「裏磐梯と外来生物問題」を開催しました！

11月13日は、今年最初の大雪となりましたが、福島大学教授黒沢高秀氏と福島大学博士課程首藤光太郎氏をお招きし、外来生物問題について講演していただきました。

近年、磐梯山周辺でも外来生物について問題視されるようになりました。ビジターセンターでも、ウチダザリガニのプログラムやオオハングソウやコカナダモの駆除作戦(9月18日)などを展開しています。

どのような問題があり、現状はどうか、今、そしてこの先どうすればよいのか、様々な答えと課題が出てきたのではないのでしょうか？

外来生物問題はとても難しい問題です。最も重要なのは、その土地の人の力が、とても大きな役割を持つことができるということです。ビジターセンターでは、今後このような問題に講演会や駆除・保護活動などのプログラムを通して積極的に発信していきたいと思っておりますので、ぜひ、ご参加ください！



↑講演会の様子



↑コカナダモ駆除作戦の様子